

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|-------------------|--------|--------|--------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービス・プロスペール | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 3月 1日 | | ～ | 2026年 3月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 100% | (回答者数) | 100% |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 3月 1日 | | ～ | 2026年 3月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 100% | (回答者数) | 100% |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 100% | (回答者数) | 100% | (回答者数) |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | IT特化型カリキュラム: Minecraftや3Dプリンタ等、将来の就労に直結する高度なIT療育。 | ミーティングの徹底: 毎日の情報共有でスタッフ間の認識を揃え、一貫性のある対応を継続。 | 実社会との接続: ITスキルを活かした地域貢献プロジェクトや、検定試験への挑戦機会の提供。 |
| 2 | 自主的な活動選択: 自分の「好き」を深掘りできる環境により、不登校傾向の子への居場所提供力。 | 成功体験の創出: 小さなステップを設定し、タイピングや作品完成を通じた自己肯定感の醸成。 | ライフスキル教育: 金銭管理や対人マナーなど、自立した社会生活に必要な非認知能力の育成プログラム。 |
| 3 | 外部連携力: 訪問マッサージや他施設(Garuhi等)との連携による、多角的な生活支援 | 相談しやすい環境作り: SNSや対面での悩み相談窓口を常に開き、子どもの「心の揺れ」に即応。 | キャリアパスの提示: 自身の特性を理解し、将来どのような働き方ができるかを共に考えるキャリア支援。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 学習支援とのバランス: IT特化が先行し、学校の宿題や教科学習との時間配分の調整が難しい。 | 評価指標の不在: ITスキルの上達を「療育的成長」として数値化・指標化できていない現状。 | ポートフォリオの導入: 子どもの成果物(IT作品等)を記録し、本人の自信と外部への証明に繋げる。 |
| 2 | 集団活動の機会不足: 個別活動が中心となるため、多人数での協力や衝突解決の経験が不足する懸念。 | コミュニケーションの偏り: ITに集中するあまり、スタッフや他児との言語的交流が後回しになる傾向。 | SST(社会生活技能訓練)の融合: IT活動の中に「教え合い」や「共同制作」を組み込み、社会性を育む。 |
| 3 | 事業多角化による分散: 多様な事業展開により、放デイ独自の長期的な教育方針が薄まるリスク。 | 中長期目標の曖昧さ: 「今、楽しい」を超えて、3～5年後の「自立した姿」へのロードマップ共有が不足。 | マネジメント層の育成: 代表に頼らずとも各事業部が自律的に動き、連携し合う組織体制への移行。 |